



眼鏡橋と 川茂堰堤

すぐそこにある明治、そして桜

明治37年、谷村電燈株式会社三の丸発電所が電気供給を開始。それ以降、桂川の豊富な流量を利用して多くの水路式の発電所が営業を開始しました。40年には東京電灯株式会社（現・東京電力株式会社）の駒橋発電所（大月市）が、わが国初の大容量発電（15,000kW）、長距離送電（東京へ80km）を実現しています。

「駒橋発電所落合水路橋」―国道139号から見える7つアーチのレンガ橋の正式名称です。東京電灯駒橋発電所へ発電用水を送るために建設された水路橋で、大きな3つの連続するアーチが朝日川の河床を支え、その東側に4つのアーチが続く合計7つのアーチを持つ優美な水路橋です。ほぼ完成当時の姿をとどめ、現在も現役の水路橋として使用されています。

いっぽう、「川茂発電所」（桂川電気興業）は大正13年2月に通水を開始しましたが、昭和4年親会社の東京電灯に買収され、日本発送電を経て東京電力に再編成されました。昭和44年12月10日、駒橋、谷村発電所とともに駒橋発電所に集中化され無人発電所になっています。今は桜の名所として、市民に親しまれています。

Three electrical power generation plants in the city employ to advantage the region's abundance of water and sharp differences in land elevation. Kawamosekitei is a popular site for enjoying cherry blossoms and viewing Mt. Fuji.

川茂堰堤

- 構造/内部鉄筋、越流型重力コンクリートづくりで石張り
- 高さ/約16m
- 長さ/約560m

駒橋発電所落合水路橋

- 総延長/56m
- 幅/8.54m
- 高さ/5.67m
- 完成年/明治40年
- 愛称/眼鏡橋
- 指定/国の登録文化財

